

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 3 月 日

札幌市立

陵陽中学校

1 今年度の重点目標

「豊かなつながりが高まる陵陽中学校の生徒」  
 ・「学習活動づくり」…互いのよさや可能性を発揮できる取組  
 ・「人間関係づくり」…互いのよさや可能性を認め合える仲間づくり  
 ・「環境づくり」…安心して過ごすことができる学校空間

2 本年度の経営方針

「豊かなつながりを生かした探究的な学び、自治的な活動の充実」 10のポイント  
 ①3年間を見通して子どもを育てる ②学びづくり・ICT活用の充実 ③自治的な活動の充実 ④心づくり ⑤体づくり、安心・安全な学校づくり  
 ⑥小中・地域との連携強化・キャリア教育 ⑦家庭との連携の充実 ⑧教育的ニーズに応じた支援・教育 ⑨不登校対策 ⑩チーム陵陽(教職員の資質向上)

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

A : 3.0以上 B : 2.5~2.9 C : 2.4以下

分野	評価項目	自己評価			学校関係者評価		
		達成状況	評定値 との差	改善方策	自己評価の達成度	改善策の適切度	
学 校 運 営	A1 学校は、「学ぶ力」「豊かな心」「たくましい体」を育てる取組をバランスよく行っている。	A	3.1	0.2	毎日の学校生活で今後も継続していくことができるように全教職員が学校目標を理解し、指導していくことができるように取り組んでいく。	A	A
	A2 生徒会役員が中心となり、「新入生歓迎会」「認証式」「生徒総会」「とよらおそうじ隊」などの生徒会活動、学校行事を行っている。	A	3.5	0.4	生徒会役員が中心となる学校行事は、生徒にとって楽しみな活動である。それぞれの行事の目的を明確にし、生徒が自主的、協働的に活動ができ、さらに充実した学校生活を送ることができるように企画運営を行う。	A	A
	A3 学校は、「職業調べ」「職場体験」「専修学校体験」「進路学活」などを通して、生徒に自己の生き方を考えさせる授業を行っている。	A	3.4	0.3	2年生の職場体験、3学年の専修学校体験は今年度開始した活動だったが、生徒が自己の生き方を考える機会となった。次年度以降も、今年度の活動を生かしていく。	A	A
	A4 学校は、道徳の授業を通して、「思いやり」「仲間を大切にすること」「命を大切にすること」などの道徳性が身につくように教えている。	A	3.3	0.3	道徳の授業を通して、相手の気持ちについて考えたり、命について考えるような教材、講演会を活用し、道徳性が身につくように指導していく。	A	A
	A5 学校は、静かに読書をする時間を作り、読書に親しめるようにしている。	A	3.1	0	札幌市共通指標のアンケート結果から、読書をするのが好きな生徒が毎年減少している現状がある。朝読書の時間が充実したものになるように指導していく。	A	A
	A6 体育の授業、部活動、体育大会、フリースロー大会を通じて、生徒が運動に親しみ、健康な体を作るように取り組んでいる。	A	3.4	0.5	札幌市共通指標アンケート結果から自分の健康状態を意識している生徒が増えている。さらに体育の授業、活動、行事を通じて運動に親しみ、健康な体を作るように推進していく。	A	A
	A7 学校は、札幌研事業や校内研修会などを行うことによって、より良い授業の指導や生徒理解を努めている。	A	3.3	0.2	評価についての研修会、生徒の個性に学校でどのように対応するかなどの講演会を小中合同で行い、研修を深めた。次年度も研修会を重ね、生徒理解を深めるように努めていく。	A	A
	A8 学校は、保護者や地域に学校だより、HP、すぐる等を利用して情報を発信したり、「OPEN SCHOOL(学校公開日)」を設定し、開かれた学校を目指している。(生徒なし)	A	3.4	0.3	OPEN SCHOOLには、講演会や行事と同日にすることで保護者が来校しやすいように設定をした。また、月行事予定やすぐるで案内をするなど情報発信を努めていく。	A	A

学 習 指 導	B1 学校は、基礎・基本が身に付くよう工夫しながら授業を行っている。	A	3.3	0.1	生徒が学校の授業で基礎・基本が身に付くような授業を行うことができるように教員一人一人の研鑽を積み重ねていく。	A	A
	B2 学校は自ら進んで学習を行うように課題を示したり、ペアやグループ活動を取り入れたりして、他の人と協力しながら学ぶような授業を行っている。	A	3.3	0.2	札幌市共通指標アンケートでは、この項目は前年度と比べて減少する結果となった。生徒が主体的、協働的に学ぶことができるような授業づくりの工夫に努めていく。	A	A
	B3 学校は、1つの授業を複数の教員で行い、生徒をサポートしたり、生徒の個性に合わせた個別対応を行ったりしている。	A	3	0.1	保護者の方には分かりにくい質問項目であった。今年度は数学でT.Tの授業を行ったり、生徒の個性に合わせて心の教室の利用、学びのサポーターの利用などの対応を行っていることを保護者の皆様に周知できるように努める。	A	A
	B4 学校は、学習の評価についてわかりやすく説明している。	A	3.2	0	4月に評価評定ガイダンスを学活などで生徒に説明し、配付している。学年PTAでは簡単に保護者に説明しているが、次年度は保護者の皆様にもさらにわかりやすく説明を学年PTAなどの場で説明していくことができるように検討していく。	A	A
	B5 学校は、授業中にプリントや教材、自己評価シートなどを使って生徒が自ら学習を振り返ることができるようにしている。	A	3.3	0.5	授業の振り返りについては各教科で行っている。さらに研鑽を重ね、生徒が自ら学習を振り返ることができるようなプリント、教材の工夫に努める。	A	A
	B6 学校は、授業でクロームブックや動画教材などを使い、生徒に分かりやすく情報を伝え、総合的な学習の時間などでは、情報収集して整理する方法を教えている。	A	3.3	0.1	ICT機器やデジタル教材の整備をさらに推進し、生徒がさらに小学校で学んだことを生かして情報収集や整理を活発に行っていくことができるように努める。	A	A

生 徒 指 導	C1 学校では、2分前着席を徹底して時間を守ることを指導したり、あいさつ運動を通してあいさつの大切さを教えるなど基本的な生活習慣が身に付くように指導している。	A	3.3	0	「あいさつと合唱の陵陽」という言葉があるように、今後も生活向上の基盤として取り組む。生徒会、生活委員会との連携も行い、基本的な生活習慣が身に付くように指導を続けていく。	A	A
	C2 学校は、毎日のシャボテンログの入力、教育相談期間の設定、スクールカウンセラーなどの活用によって、生徒の悩みについて把握しようとしている。	A	3.2	0.1	毎朝、シャボテンログの入力を行い、生徒一人一人の体と心の健康観察を行っている。さらに年に2回の教育相談のほかに、常に生徒に寄り添うことを基本として生徒理解に努めることを継続していく。	A	A
	C3 学校は、いじめは「しない・させない・許さない」を徹底するため、学校いじめ対策委員会を月1回設定し、いじめ防止に向けて組織的に対応している。	A	3.3	0	いじめアンケートなどの調査を有効に活用し、学校全体でいじめ防止の環境づくりを進める。月1回設定している学校いじめ対策委員会では、校内のいじめの情報共有し、いじめ防止対策を行ったり、いじめ事案が起きた場合は状況に応じた対応を丁寧に行うことを今後も継続していく。	A	A
	C4 学校は、学校運営協議会(CS)を設定して地域と関わりをもったり、三者懇談、学年・学級PTAを設定し、地域・保護者と協力して、子どもを育てようとしている。	A	3.2	0.2	学校運営協議会(CS)を今年度から設定した。地域・保護者の方々と協力し、お互いに協力しながら子どもを育てていく方針を話し合うことができた。今後もさらに話し合いを重ねることで、学校を含む地域みんなで子どもたちを育てていくことができるように推進する。	A	A
	C5 学校は、子ども一人一人を大切に、子どもが安心して安全に学校生活ができるような環境を作っている。	A	3.4	0.3	今後も、子ども理解に関する研修などを行い、今まで以上に子どもが安心して安全に学校生活ができるような環境づくりを継続していく。	A	A

学校関係者評価委員会  
による意見

・全体的に評価が昨年度よりあがっている。評価項目に対する改善方策を次年度に生かして、これからも学校づくりを頑張ってもらいたい。  
 ・全体的に、子どもたちのアイデアや意見を取り入れて進めたい。より一層活性化させたい。  
 ・地域としては、学校や子どもたちのニーズに合わせて企画・運営・協力をしたいと考えている。そのため、町内会、PTA、学校の連携を密にして子どもたちが安全に学校生活ができるような環境づくりに協力していきたいと考えている。